

白神山地の日常生活に興味のある人は、ホテルや旅館に宿泊する代わりに、リーズナブルな料金で民泊施設を利用することができる。藤里町粕毛地区の「はなの民泊通り」は、2016年にまちづくりの一環として6つの民宿が立ち上げられた。民宿は引退したオーナーや夫婦が運営しており、合計30名の宿泊が可能である。

民泊施設では、通常はオーナーと一緒に食事をし、バス・トイレも共用である。個人の家に滞在することは、地元住民と交流したり、昔ながらの家屋の内装について知ることができたり、家庭料理を味わったり、町の見どころに関して地元住民ならではの情報を得ることができる。

朝食と夕食は民宿で食べることができ、食事に関するリクエストがあれば、事前に知らせればほとんど対応してもらえる。団体の宿泊客は、近くのコミュニティセンターの近くの農家レストランで食事をすることもでき、民宿のオーナーが地産の食材をいかした食事を提供してくれる。串に巻き付けて焼いたにぎり飯をスープや鍋に添えた秋田名物のきりたんぼを作ることができる。7月には、無農薬のブラックベリーピューレ作りも体験できる。また、コミュニティセンターは地域の自転車ツアーの出発点にもなっている。

日本の家や入浴の習慣について、気を付けるべき点がいくつかある。まず、家の玄関では靴を脱ぎ、畳の上では通常スリッパを脱いで歩く。入浴の際、シャワーで体を洗ってから浴槽に入る。浴槽に浸かった後は、浴槽の湯を抜いてはならない。あとから夕方に入浴する他の人が風呂の湯を温めなおして利用する可能性があるからである。

問い合わせ・予約は [info@fujisato.info](mailto:info@fujisato.info) からできる。民泊と地元の活動の詳細については、<https://www.fujisato.info/en/minshuku/> で確認できる。